

# 緑のまきば

2015年 No.48

小金井緑町教会

小金井市緑町四一六一三三

☎042-381-7961

牧師 山畑 謙

## 説教

### 神は我らの避所、また力なり

山畑 謙

2015年度  
の聖句

「神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。」

(詩編 四六・二)

詩編四六編は、宗教改革者マルティン・ルターの作った美歌二六七番「神はわがやぐら」としても親しまれています。歌詞の第一節「神はわがやぐら、わが強き盾、苦しめる時の、近き助けぞ。おのが力、おのが知恵を頼みとせる陰府の長も、などおそるべき。」ルターの讚美歌でよく分かるのは、神こそ力だと歌い、その神を頼みとすること、すなわち、己が力、人の力を頼みとしないということです。これは当たり前のごとく、ように聞こえるかもしれませんが、いざ苦難に直面すると、己が力、人の

力を頼みとしてしまうものです。一九六一年、「スタンド・バイ・ミー」(ベン・E・キング)という曲がヒットしました。こんな歌詞です。「夜が来て、周りが暗く月の光しか見えなくなっても、僕は怖くない、そう、怖くないのさ、ただ君がそばにいてくれれば、スタンド・バイ・ミー。もし僕らの見上げてる空が落ちてきても、山々が海の中に崩れ去っても、僕は泣かない、そう涙はこぼさない、ただ君がそばにいてくれれば、スタンド・バイ・ミー」

この曲は、一九八六年、ステイヴン・キングのちよつと怖い短編小説の映画化で、再び世界に知られるようになりまし。その映画は、一二歳になる四人の少年の冒険と成長、その友情の物語でした。少年たちは、それぞれの家庭環境や境遇の中でいろいろな傷を負い、そして深い孤独を抱え持っていました。しかし、友が傍らにいてくれることによって勇氣と生きる力を得ていきます。スタンド・バイ・ミー。僕のそばに、傍らにいて。それが苦難の中にあえぎ痛む者の祈りです。

主イエス・キリストの復活。それは主イエスが、私たちの罪を身代わりになつて十字架に死んでくださったが、死に支配されることなく、かえって死に勝利して復活せられた出来事。それは他人の、あるいは自分自身の罪の故の苦しみ、またあるいは原因不明の不条理な苦難の中で、誰か傍らにいてほしいと願う私たちの祈りに対する答えでもありました。罪は、傍らにいて大切な人を奪い、その仲を引き裂いて断絶をもたらします。その「罪」の圧倒的な力のもとに、私たちは打ちのめされます。私たちが、深い孤独の淵から願う祈り。それがスタンド・バイ・ミー。そばにいて。主イエスの亡骸がなくなつて途方に暮れている婦人たちに告げられたのは、「あの方は、ここにはおられない」ということ。あの方は復活され、死者のいるべきこの墓にはおられないのだ、と。では、どこにおられるのか。その答は告げられていません。しかし婦人たちは促されます。「思い出しなさい」と。主が予告されていたことを。弟子たちは婦人たちからこの話を聞かされ、「たわ言」のように思ったとあります。